

■第7回日本放射光学会功労報賞報告

小山 篤氏（高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 放射光実験施設）

足立伸一（KEK 物構研）

この度、KEK 物構研の小山篤さんが、第33回日本放射光学会年会・放射光科学合同シンポジウムにおいて、第7回功労報賞を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。推薦者を代表して、小山さんのこれまでのご経歴と業績を紹介させていただきます。

小山さんは、1984年4月のKEK入所時より、フォトンファクトリー（PF）のXAFSビームラインに関わる業務を中心として、X線ビームラインの建設・運用・管理・利用支援・高度化に従事されました。また、施設整備、防災防火などを担当され、施設安全にも大きな貢献をされました。

【XAFS ビームライン関係】

- KEK入所時よりXAFSビームラインを担当し、BL10B, BL7C, BL6B, BL12C, BL9A, BL9C, NW10A, BL15Aビームラインの建設・運用・管理・高度化を担当するとともに、ユーザーによる大学共同利用を技術者の立場で支援してきた。
- XAFSビームライン群に関わる、以下の技術開発や改良を実施した。
 - ▶オートコリメーターを用いたX線二結晶分光器のオフライン調整法の開発
 - ▶サジタルフォーカス分光器の光軸調整法の開発
 - ▶X線二結晶分光器冷却水の温度や流量の安定性の改善
 - ▶弯曲回転楕円鏡を含む光学系調整法の開発
 - ▶二結晶分光器入射前のスリットを利用した光ビーム位置モニターの開発

このようなXAFSビームライン群の整備および高度化により、PFのXAFSビームラインの利便性や安定性は大きく向上しました。小山さんが関わったXAFS測定法の高度化、効率化により、XAFSユーザーが多大な恩恵を受けることとなり、その功績は日本国内のXAFSユーザー数の飛躍的増大に貢献しました。

【施設整備関係】

- 実験ホールの温度、湿度、気圧、冷却水の流量、圧力変動などを記録する環境測定システムを構築し、空調機の調整、冷却水施設の膨張タンク制御のデジタル化、補給水リミッターの改修などを実施。この取り組みにより空



写真1 第33回年会総会の表彰式にて、朝倉会長と小山氏

調の温度揺らぎは1/5（0.2℃/2時間）、日較差で1/3（0.4℃/1日）程度に改善された。また、長年の問題であった冷却水の圧力変動によるトラブルも改善された。

【安全関係】

- 大規模で大勢の共同利用者を抱え、放射線を取り扱う放射光共同利用施設において、共同利用実験を安全に行うために、以下の事項に取り組んだ。
 - ▶PF地区の各建物に分散していた火災受信器を一つにまとめ、すべての実験ハッチに煙感知器を取り付け、非常通報装置を設置するなど、緊急時に迅速な対応をできる体制を構築した。
 - ▶実験ホールに避難誘導のための掲示などを設置するとともに、ユーザー参加の避難訓練を企画するなど、共同利用者の安全確保に取り組んだ。
 - ▶共同利用者が持ち込む加熱昇温実験装置の検査を行い、危険な装置には改善を指導した。

このように、小山さんは技術者の立場で、PFのXAFSビームラインを中心に優れた技術開発を行うとともに、後進の技術職員を育成、指導しながら、施設整備から安全まで多岐にわたる業務を担当されてきました。同僚や後輩からの信頼も厚く、KEKで甚大な被害が発生した2011年の東日本大震災では、暖房はもちろん照明さえまならない中で復旧作業を主導し、スタッフを鼓舞しながら被害状況の把握から短時間で運転再開までこぎつけました。

年会の懇親会でのスピーチで、小山さんは「PFで放射光が発生してから2年めにKEKに入所しました。当時PFは一部のパワーユーザーが使う施設だったのですが、今では多くの研究者に普及しました。そんな放射光の発展とともに歩んで来られたことに感謝します」と挨拶されていました。放射光が多くのユーザーに利用されるようにな

ったのは、間違いなく小山さんのような技術者の方々の貢献が大きいと思います。

この度の受賞を心よりお慶びするとともに、これまでのご尽力に感謝いたします。今後とも日本の放射光科学の発展に尽力いただけるよう祈念いたします。

この度は、誠におめでとうございました。